

地域医療調査研究特別委員会中間報告説明会（荒川地域）議事録

当委員会では、これまでの調査研究内容を取りまとめた中間報告を各地域の区長会において説明し、当日、各区長会からの意見聴取を行ないました。

この説明会において聴取した意見を踏まえ、当委員会としての最終的な調査研究報告書の取りまとめを行い、当市における地域医療の抱える課題や問題等の克服に向けての施策を行政に提言することとしています。

以下に、各地域で開催した説明会の議事録（簡易）を記載し、意見聴取の状況についての経過を説明します。

荒川地域 [平成24年2月1日(水)] 荒川支所3階会議室

出席議員：板垣一徳委員長、長谷川孝副委員長、板垣千代子委員、鈴木いせ子委員、

川村敏晴委員、平山 耕委員、相馬エイ委員、小林重平委員、小池 晃委員

（9名/12名）

議事録(簡易)

Q 大体私らが意見を述べるのは21ページ、22ページの辺りだろうと思うが、中間報告を見ていて、私らが地域で、集落などでできることは何かと考えたときに、やはり高齢化対策だとか、いわゆる病気に罹らないための健康管理だとかといったところに焦点が絞られていると思う。医師の確保だとか勤務医師の負担軽減だとかといった部分になると、区長としての役割とはちょっと違うのではないかと思う。この通りなんだけど。どんな働きかけができるのかちょっと考えるところである。できることは病気になる健康、集落センターに高齢者を集めて何かやるということなのかと感じる。提言の「(7)の救急時の道路、交通網の整備について」の部分の委員会での調査研究の状況についてお聞きしたい。

委員長 いまの質問の件ですが、21ページ、22ページについては当委員会の調査研究の内容を中間報告として取りまとめたものです。おおよそここに記載していることをしっかりとやることによって、医療が充実していくのではないかということで、7番目の救急時の医療の問題ですが、当地域の3次医療としては新発田市にある県立新発田病院がこれにあたります。この3次医療を受けるには、合併して一番遠い地域といえば旧山北町です。1時間半で新発田病院に到着することは現在不可能です。そういったことから、救急時に高速道を利用して1時間以内に新発田病院の3次医療を受けられるような高速道の整備が急務と考えていることから、全体的な面で考え、こういった道路の整備についても触れているものです。

Q 委員長は広域の観点での意見であると思いますが、私とすればもっと身近な問題として捉えてみた場合、ここ（荒川地域）では真ん中にJR線が通っているわけですが、JR線を跨いで県立坂町病院へ救急車が搬送するのです。この状況はうまくないといった問題があります。具体的に

言うと、JR保内踏切がありますが、日中はほとんど救急車がそこを走って病院に行くことはないのですが、夜間、一刻一秒を争うようなときは結構通っています。消防本部に確認をしたが、基本的には113号線、あるいは金屋から坂町に来る支所の前の道路を走って来るのが消防本部の救急車としての基本的なルートとして県立坂町病院まで搬送するということだそうです。実際には夜中だとか、朝方だとかはその保内踏切を走行して県立病院へ走るというのが結構あるのだそうです。これにより荒川地区区長会の要望という形で市議会の方へ陳情を行いました、残念ながら、委員会で意見の一致を見なかったということで願意了承せずということになったわけです。これは残念だと、さびしい感じがしたものです。この辺が一番JR線の西側の集落の皆さんにとっては、救急医療に関してはそこが通行できるようであれば、これも一つの交通網の整備ということで必要なことと思います。この観点からも研究していただければと思う。

委員長 貴重な意見でありますので、ここでどうこうといった答弁は差し控えさせていただきますが、けっして新発田病院だけがということではなく、地域の個人病院に関係することでも、あるいは坂町病院に関係することでも、いまの道路のことについても、細かなことで必要性を感じていることをお聞かせいただければ、それを参考に最終報告をまとめたいということですので、ぜひ、もっともってご意見を出していただきたいと思えます。

Q 補則しますが、昨年荒川区長会から南大通線という県立病院から南大通線の通りにある保内踏切の拡幅についての陳情を市長と議会に対して行っているわけですが、これが議会でいろいろと議論された結果、否決されたということでもあります。中核病院として、地元としては大事な病院であることから、3次医療も大切ですが、そういった意味合いからして、議員の皆さんが荒川地域にお出でになったわけですからお願いしたいということで地元の区長からのお願いであるのでよろしくお願いしたいと思っています。

Q 今日の議題に合うかどうかわかりませんが、一つには、県立坂町病院は県立でありながら最高レベルの医療が無いということです。これでは患者が来ないのも当然だと思います。個人の病院に流れるのも、それはそれで良いのじゃないかといった考えなのかもしれないが、現に県立病院にシステムがないということが問題だと思います。予算の面で無理があるということなのであれば、村上市で負担すべきではないのですか。新しいまちづくりも大変必要なことではありますが、その前に医療が無ければ人は幸せに生活できません。それから、産科、赤ちゃんを産む病院これがこのエリアに、神林地区、関川村はどうかわかりませんが無いですね。これをどう考えていくのか。この辺の人たちはほとんど新発田に行くのです。大事な赤ちゃんを産むといった命をかけた仕事というか、

この産科がないということをどう考えるのですか。

- Q 先ほどのあいさつの中にもありましたが、村上病院の新設の件については、ジャスコ跡地については無理だということですが、いろいろな議会報告等を見ると4ヶ所程度の候補地があるということですが、候補地の選定が何でそんなに難航しているのですか。一点だけ要望としてお願いしたいのですが、商店街の活性化のために病院ということは、当然行政であるのであるのかもしれませんが、新発田の例もあるので、やはり病院の機能を最優先に場所の選定をお願いしたいのだということを要望させていただきます。それと、新発田病院もほぼ満杯となればやはり地域の病院は必要なのだと思います。坂町病院にそれほどの機能がないのであれば、村上病院の新設を早急にやる必要があると考えていますので、ぜひそれについても早急に開設できるように、設備、最新の機械等が無ければ医師が集まらないという話も聞いているので、急いで良い病院をつくって医者を集めて救急体制に備えるようなことを考えていくべきだと思っていますのでよろしく頼みます。

委員長 はい。分かりました。

- Q 今言われたとおりだと思います。坂町病院もあるのですが、それはそれなりの機能を発揮していただいているわけですが、残念ながら一時を争う心疾患、脳疾患の患者を受け入れられる体制に無いというのが実態だと思います。確か私の聞いたところによりますと、坂町病院ではMRIも無いと言うことだそうです。最低でも脳や心臓の疾患の場合は最低MRIが無いとやっていけない状況だと思います。だからと言って、それを直ぐに充実させてくれと言っても無理なことだと思いますので、手っ取り早い話としては厚生連村上総合病院に現在脳外科あるわけですのでそこに最新の機械を入れていただき、地域の住民が安心して暮らせるような環境を一時も早く、脳疾患、心疾患というのは時間との勝負ですので、早急に行政の最優先課題として取り組んでいただきたいと思っていますので要望します。

- Q 現在坂町病院では1年に一回病院の活性化協議会を開催しています。しかし遅々として医師の増員はできていません。委員会でつぶさに細かい資料を作っていただいて大変参考になるわけですが、委員会では県との折衝の関係でそれらに対する見通しというのは把握されているのですか。せっかくの県立病院なので、新発田病院に繋ぐまでの大切な病院だと思うのです。厚生連は県立病院ではないので、本来であれば県が県立病院を建設するのが最初だと思うのですよ。厚生連の充実もさることながら、ある県立病院を充実させるというのが緊急の課題だと思いますが、これに対して委員会としてはいかがなのでしょう。

委員長 坂町病院の、今新発田病院に異動されました病院長さんをお迎えして、坂町病院の現状等をお聞きした経過があります。その中ではやはり、医師不足の問題、患者の問題、産婦人科医を呼ぼうと思っても先生が集ま

らないということがどの病院でも大きな課題でありました。実際村上総合病院だけが産婦人科を運用していますが、委員会としては坂町病院を無くしようとかこのものだけを良くするとかといったことではなく、新上市の中での医療については、この県立病院も必要だということについてはまったく同感であります。しかしながら、2次医療を確実に提供できる方法として、県立病院にやっていただくのが良いのか、厚生連の病院が良いのか、民間でそういった病院をやれば良いのかといったことをいろいろと調査研究しているということでもあります。村上病院の院長先生からも、坂町病院の院長先生からも、徳洲会病院の院長先生からも、村上市岩船郡医師会の会長さんからも委員会に来ていただき、お互いに意見交換と現状の話は聞いているわけであります。

Q やはり、坂町病院は中核病院として以前は、産科はじめ耳鼻咽喉科等もあったわけですが、お医者さんがもういないということで診療科が閉鎖されているわけです。先ほど話があったように活性化促進大会は市長が会長で年に1回お願いしていますが、どうしても県を通してのお願いです。限られた範囲の手立てしかできないわけです。もう少し、皆さんが要望するのは新潟の医大を終わると直ぐ市民病院等に配属されて坂町病院にも来てくれたとか、しかし最近は更にその上もう2年東京の大学に行かなければならないといった状況のようです。そうすると、新潟県だけではないのですが地方に来る医者が限られてしまっていて、7割、8割の医者は地方へ行かないという状況のようです。そのため地方では医師不足になっているというような話しも聞いています。このことから、中央から医師を呼ぶような方策等も考えていただきたいと考えるわけです。村上病院は村上病院としてですが、地元坂町病院はそのように、県北の村上市の南の玄関口でありますし、関川村にしても、また神林地区や村上地区からも坂町病院に入院しています。そんなことから力を貸していただき、村上病院と併せて坂町病院の医師の確保に尽力いただきたいとお願いします。

Q 活性化協議会では毎年大会やっていますが、毎年毎年医師不足ということでやっていますが、県も村上市とタイアップして医師を育てるような施策をした方がかえって良いと考えます。いない、いないと言うばかりでなく、自分たちで育てる仕組みを作る方が良いのではないかと考えます。

Q 地元の声を大きく取り上げていただき、ご苦労様でもお骨折りをいただきたいと思います。

Q これよけいなことですが、実際医師不足です。それは認めています。本来国を挙げて医師をつくるべきです。これが緊急を要することですが、それが成されていないところにこういう実態があるのだと思います。段々この傾向は強くなると思います。お金のある人が医者に、また、医者の息子が医者にとということで、それ以外の人はどうすれば医者にな

委員長

れるのですか。今の世の中。無理なのです。いくら良いこと言っても。国を挙げて医師不足を解消するよう地方から声を上げていただきたい。区長会の皆さま貴重なご意見をいただきました。今ほど、終わりのほうに医師不足ということについてご意見をいただきましたが、これは国の政策に関わることでありますし、また、市で医師を育てるべきだということも貴重なご意見としてお聞きしました。この圏域から医師になっていらっしゃる方も日本全国に沢山いると思っています。それを踏まえて今日いただいたご意見を持ち帰りまして委員会の中で議論しますし、これから合併したすべての1市2町2村で説明会を開催するわけですが今日は出発点でありますので、これを委員会の最終報告の中で取りまとめてこの地域の医療の充実に向けた救急医療体制の整備のための委員会の役割を果たして行きたいと考えていますので、今日は大変ありがとうございました。

